

NATURE

ネイチャー



動物写真家 須藤一成

アフリカには、たくさんの種類の猛禽類が生息している。イヌワシやクマタカ、オオタカなど、日本にいるワシやタカの近縁種も多々いる。ブラックイーグルの撮影中に、時折どこからともなく現れて遠くへ去って行く、大きくなってくましいマーシャルイーグルに興味を持った。

翼開長は2・3歳。カモシカに似た小型のアンテロープやサル類、1歳もあるオオトカゲなども捕食するパワーを持っている。しかし、家畜や狩猟動物を捕食するという理由で、国立公園の外では迫害を受けて生息数がかなり減少。国際自然保護連合(IUCN)によって絶滅危惧種に分類されている。

生息地はサバンナの平原地帯だ。撮影地には、サバンナが広がる南アフリカのクルーガー国立公園を選んだ。その面積は日本の四国よりも広い。それほど広大な園内で、行動範囲が150平方キロ以上もあるマーシャルイーグルを見つけることは非常に難しい。一日中探し回っても1回出会えるかどうか。昨日出会った場所



2 マーシャルイーグル

小さな竜巻に突入して舞い上がる



高空へ一直線、2時間飛び続け

所に今日行っても、現れることはほとんどない。

そんなマーシャルだが、一度飛び立つと時間も飛び続けることが多かった。空高くまで上昇した後、一直線に移動する。どんどん遠ざかり、双眼鏡でも小さな点になって見失いそうになる。7〜8分飛行した先で、急降下と急上昇を繰り返すダイナミックな波状飛行をやっている。これは隣接ペアに対して自分のテリトリーを示すための行動だ。このワシには隣のマーシャルが見えているのだ。こうして1時間以上追跡を続けても、毎回最後は小さな点となって空に溶けて見えなくなってしまう。

一度だけ、最後まで追跡できたことがあった。巣から飛び立ったマーシャルは、いつものように高空を飛び回った。1時間がたち、目がチカチカ、双眼鏡を持つ手はブルブルと震えだす。それでもなんとか追跡を続けて2時間近くたった頃、マーシャルが翼をすばめて猛スピードで降下しながらこちらへ向かって



1 ほぼどもあるオオトカゲを捕食する



地上を走り回っているジリスが獲物となった

すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に日本やアフリカで野生動物の撮影に取り組む。米原市在住。写真集「Golden Eagle イヌワシ」(平凡社)、DVD「ブラックイーグル」「ツキノワグマ」など。

てきた。地上すれすれまで降下し、ふわっと浮き上がるようにして巣へと帰って来た。2時間も飛行を続けていたワシに感動し、それを最後まで追跡できたことがうれしかった。

また、巣場以外では、同じ木に止まっているのを見たことがなかったが、カラハリ砂漠の一角にあるカラハリ・トランスフロンティア・パークを訪れた際に、ついに毎日やって来る一本の大木を見つけた。ここで獲物が通りかかるのを待ち伏せている。獲物が現れないと午後には飛び立ち、高く舞い上がって次の目的地へと飛び去った。

ある日、飛び立ったワシが、砂ぼこりを巻き上げている小さな竜巻に乗って翼を広げ、一気に高空へと高度を上げて飛び去った。筋肉質で体重のあるマーシャルが上昇するにはけっこうなエネルギーを消費する。竜巻を利用して、簡単に素早く空高くまで上昇するのは見事だった。



11 第3水曜日に掲載予定